

外 国 語 学 部

日本語学科

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33101 } 33103	基礎演習（日）1・2・3	必	1	各2	前期	曾我松男 駒井明一 加藤俊一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 言語学的視点から日本語および日本文化を研究する方法とその基礎的概念を考察する。学生は積極的に授業活動に参加することが期待され、自分の意見を明確に発表する訓練も同時に行う。

【講義計画】 クラスをA、B、C三セクションに分け、日本語および日本文化の研究の基礎概念の討論に、学生が少人数で参加できるようにする。日本語、日本文化に対する、いわゆる社会通念の検討や、日本語分析に必要な音声的、意味的、文法的基本概念の討議にも、学生の積極的な参加を求めている。

【評価方法】 クラスでの討論と、期末レポート

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33111 } 33113	ことばと文化（日）1・2・3	必	1	各2	後期	櫻井進 土田友章 町田奈々子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 1. 現代社会において、民族＝国民の自己同一性を形成する領域として前提されていることばと文化を民族－国民という19世紀近代が形成したイデオロギーから解放して、どのように語ることができるのかを議論する。
2. (1)日本人とコミュニケーション、(2)日本文化と<ことば>：暗黙の了解、象徴表現、(3)ことばと現実、(4)自我・自己のことば、などが主たる話題である。
3. ことばと社会
(1)日本語と女性、(2)日本語と「うち」 (3)敬意表現 (4)社会方言と地域方言

【評価方法】 積極的な参加を求める。
口頭での討議や、短いエッセイを書くことをとおして、知的な修練の手始めとしたい。

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33201	卒業論文指導	必	4	2	後期	町田奈々子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 各自が選んだ研究課題について先行研究をまとめ、問題点を指摘し、学生相互の討論を通して自分の考えを論文完成にむけてまとめていく。

【講義計画】 各自の論文の中間発表、討論を行うほか個別指導も行う。

【評価方法】 口頭発表と卒業論文

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33202	卒業論文指導	必	4	2	後期	伴 紀 子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 各自が選んだ研究課題について発表し、全員で討論する。関連論文の検討を十分に行いつつ、その内容をより充実させることをめざす。

【講義計画】 1. 少なくとも学期初めと終わりに口頭発表をする。
2. 個人指導を続ける。

【評価方法】 口頭発表と卒業論文

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33203	卒業論文指導	必	4	2	後期	土 田 友 章
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 参加者各人の研究課題について発表し、討論し、時には関連論文などをともに研究しながら、それぞれのテーマが自他により明確に、より充実してゆくことをめざす。

【講義計画】 前半と後半に1度ずつ、参加者各人にその論文の梗概をクラスで発表してもらい、討論するほか、個別の指導を通して、納得のゆく論文に仕上げてゆく。

【評価方法】 口頭発表と論文とによる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33401	日本語資料研究	選・必	2	2	後期	駒 井 明
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 日本に漢字がもたらされて中国語で文書が書かれるようになって以来、片仮名、平仮名が使われるようになり、変体漢文や漢文読み下し文、和文や俣文、キリシタン資料に見られるローマ字書きのように、多種多様の記録が残されている。それらのサンプルを少量ずつながら手にして、それぞれの正書法、書体、文体、文法などの特徴を感じ取る。

【評価方法】 クイズ2回、学期末試験

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33403 33405	現代日本語の構造（音声）I・II	選・必	2	各2	前期 後期	駒 井 明
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 日本語で使われている音声を様々な角度から観察し、日常生活で無意識に使い分けている音声を客体化して見られるような素質を養う。又、日本語教育で問題となる「外国語なまり」について音声学の立場から考察し、効果的な発音矯正法を考える。

【評価方法】 クイズ及び、学期末試験

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33407	現代日本語の構造（文法）Ⅰ	選・必	2	2	前期	曾我松男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 生成文法の枠組を用いて、現代日本語の構造を深く観察し、分析する能力を培うことを目指す。

【講義計画】 テキストに沿って講義を進めていくが、学生の研究の口頭発表も行う。

【評価方法】 筆記試験、クラスでの口頭発表

【テキスト】 久野 暉著『日本文法研究』（大修館、1973）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33409	現代日本語の構造（文法）Ⅱ	選・必	2	2	後期	曾我松男
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 生成文法の枠組を用いて、現代日本語の構造を深く観察し、分析する能力を培うことを目指す。学生は、現代日本語構造（文法）Ⅰを履修済みのこと。

【講義計画】 テキストに沿って講義を進めていくが、学生の研究の口頭発表も行う。

【評価方法】 筆記試験、クラスでの口頭発表

【テキスト】 久野 暉著『日本文法研究』（大修館、1973）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33413	日本語学特殊講義ⅠA（意味論Ⅰ）	選・必	2～4	2	後期	斎藤 衛
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 フレーゲ、タルスキー、パトナム、グライス等の論文を参考にしながら、意味とは何かについて考える。論理学の基礎も学習し、自然言語の特殊性についても考察する。

【評価方法】 小テストとレポート

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
33415	日本語学特殊講義 I A (言語哲学 I)	選	2~4	2	前期	服部裕幸		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	不可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目
11601「哲学特殊講義B I」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
33416	日本語学特殊講義 I A (言語哲学 II)	選	2~4	2	集中	服部裕幸		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	不可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目
11605「哲学特殊講義B II」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
33417	日本語学特殊講義 I A (記号論理学 I)	必	2~4	2	前期	服部裕幸		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	不可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目
11151「論理学 I」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
33418	日本語学特殊講義 I A (記号論理学 II)	必	2~4	2	後期	戸田山和久		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	不可

【講義内容】 文学部哲学科開講科目
11155「論理学 II」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者		
33419	日本語学特殊講義 I A (日本語のヴォイス)	選・必	2~4	2	後期	町田奈々子		
他の科目との関連					他学科履修	可	重複履修	不可

【講義内容】 日本語の構造の中から、特にヴォイスに関するものに焦点をあてながら、現象、研究法を学ぶ。

【講義計画】 まず準備段階として、日本語の動詞と格の関係についても概観する。続いて、受動態、使役態、自発態、動詞の自、他、授受表現等の分析についての考察を進める。教科書以外にもプリントを用いて論文を読む。

【評価方法】 期末試験、出席、クラス討議への積極的な参加も重視する。

【テキスト】 寺村秀夫著『日本語のシンタクスと意味Ⅰ』（くろしお出版、1984）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33422	日本語学特殊講義ⅠA（言語分析Ⅰ）	選・必	2～4	2	後期	斎藤 衛
他の科目との関連	留学生別科との共通開講科目であり、講義は英語で行う。			他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 Introduction to Japanese Linguistics

【講義内容】 This course surveys the basic areas of linguistics (phonology, morphology, syntax, semantics, and psycholinguistics), and is designed to train the students in linguistic analysis. We will apply the method of analysis to Japanese, and discuss the linguistic properties of this language in detail.

【評価方法】 3-4 problem sets and final exam.

【テキスト】 Will be distributed in class.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33424	日本語学特殊講義ⅠA（テンスとアスペクト）	選・必	2～4	2	前期	曾我松 男
他の科目との関連	現代日本語の構造（文法）履修済みか、履修中のこと。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 現代日本語におけるテンス、アスペクトに関する問題を検討する。

【講義計画】 テキストに沿って討論を進めていくが、学生の研究の口頭発表も順番に行う。

【評価方法】 口頭発表、クラスでの討論参加、試験

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33425	日本語学特殊講義ⅠA（UGと言語獲得）	選・必	2～4	2	前期	町田 奈々子
他の科目との関連	生成文法関係のクラスを履修していることが望ましい。			他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 第一言語獲得における普遍文法の役割については、多くの研究者が議論を重ねてきたが、同様に第二言語獲得においても最近普遍文法の役割をめぐって活発な議論が交わされている。このクラスでは言語獲得研究の中でも第二言語獲得研究に焦点をあて、普遍文法との関わりを考察していく。特に第二言語としての日本語を取り上げ、実際の日本語学習者の中間言語の一部に対して普遍文法がどのような説明を与え得るかを考察する。

【講義計画】 Whiteによる教科書を中心に講義を進める。生成文法における言語獲得の捉え方、第一言語獲得研究の概観、第一言語と第二言語の相違点、共通点、そして第二言語獲得における普遍文法の役割の可能性を探求するにあたっての、理論的、実証的研究の問題点を考察していく。

【評価方法】 出席、クラス討議参加、および期末試験。

【テキスト】 リディア・ホワイト著 千葉修二、ケビン・グレッグ、平川真規子共訳『普遍文法と第二言語獲得』

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33427	日本語学特殊講義 I A (日本語と社会)	選・必	2~4	2	後期	町田奈々子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 留学生別科との共通開講科目である。日本語と社会の関係について、社会言語学アプローチもとりいれながら、日本語の種々の現象を留学生と共に考える。内容的には敬語や授受表現、女性語等、特に留学生が理解に困難を感じる現象に焦点を合わせる。講義、テキストはすべて英語であり、かなりの英文を読みこなす力が要求される。またクラスでは活発な討議も行なわれる。試験、レポートについては日本語も可とする。

【講義計画】

- ・社会言語学概説
- ・日本語の特徴、日本の社会方言
- ・世界の女性語、日本の女性語
- ・差別語
- ・丁寧さの普遍性と日本語
- ・「うち・そと」の概念
- ・敬語
- ・授受表現
- ・人称表現
- ・ノンバーバルコミュニケーション
- ・その他

【評価方法】 2度の小テストとタームペーパー及びタームペーパーについての口頭発表。

【テキスト】 Kindaichi, H. (1988) *The Japanese Language*. Tokyo: Tuttle
 Cherry, K. (1988) *Womensword. What Japanese words say about women*. New York: Kodansya International.
 Suzuki, T. (1978) *Words in Context: A Japanese Perspective on Language and Culture*. Translated by Akira Miura. Tokyo: Kodansha International.
 Reading Package *Language and Society in Japan*, prepared by Nanako Machida.

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33441	日本語学セミナー A 1 (生成統語論 I)	選・必	3・4	2	前期	斎藤 衛
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 日本語の分析を通して、生成文法の目的と方法について考える。本年度は文法格に焦点を当て、70年代及び80年代に提案された分析を検討する。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 後日指定する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33442	日本語学セミナーA2 (生成統語論II)	選・必	3・4	2	後期	斎藤 衛
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 統率、束縛理論に至る1970年代の生成統語論の発展を概観し、日本語の研究が理論言語学にいか
に寄与しうるか考える。句構造理論、格理論、束縛理論、境界理論に焦点を当て、日英語比較研究
のあり方についても検討する。

【講義計画】 講義を主とする。

【評価方法】 5～10枚のタームペーパー

【テキスト】 後日指定する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33451	日本語とコンピュータ	選	1	2	集中	坂本 正
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 コンピュータを使い、大学のレポート作成・卒業論文作成に役立つ日本語・英語の文章作成から
各種グラフ作成、簡単な表計算のやり方、電子メールの受送信、インターネットの使い方などを主
に習得する。

【講義計画】 演習課題に沿って授業を進める。

【評価方法】 レポート

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33453	文章表現法	選・必	2	2	後期	加藤 俊一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 日本語教育の場では、進学準備として小論文の書き方の指導をしたり、大学などに入ってから
の学生のために各種レポート、論文を作成する時に必要な論理的な文の書き方の指導をしなければ
ならない。このクラスでは、外国人学習者のための作文作法を指導するためのテキストを使用する
が、日本語教師を目指さない人にも役立つようにしたい。いくつかの実例を基に、より論理的な文
とはどういうものか見直していくことにする。

【講義計画】

1. 志望理由書の書き方
2. 要旨のまとめ方
3. 論理的文章を書くための一般原則
4. レポート、論文の書き方
5. 事実の描写
6. 資料の論じ方
7. 論争のまとめ方
8. その他

【評価方法】 課題文二つと自分でテーマを決めて書く文一つ。

【テキスト】 C & P 日本語教育・教材研究会編『日本語作文II』（専門教育出版、1989）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33455	日本文化概論 I	選・必	2	2	前期	土田友章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 文化を、とりわけ我々自身の「日本文化」を、さまざまな面から考えてゆく。
 1. 「文化」とは何か？ 2. 文化と歴史 3. 日本文化の特徴（道の伝統） 4. 現代文化の諸問題、などを順次話題にしてゆくが、ときに現時点で問題・話題となっていることなども、文化論の視野において検討してゆく。

【評価方法】 理解・表現の練習の一助として、2度ほど短いエッセイを提出する。また期末には小論文を課する。クラスでの積極的発言を評価する。

【テキスト】 教科書は用いないが、時おり、複写した教材を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33457	日本文化概論 II	選・必	2	2	後期	土田友章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 日本文化論

【講義内容】 日本文化論のいくつかを取り上げ批判的に検討することによって、日本人の文化伝統のよりよい理解をめざす。
 今年度は、L. フロイスの『ヨーロッパ文化と日本文化』、新渡戸稲造の『武士道』、柳田国男の、『先祖の話』などを、検討する。

【評価方法】 クラスでの討論に参加すること、および、期末の小論文による。

【テキスト】 教材は、主として文庫本を用いる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33463	日本文化史文献講読 A II	選・必	2	2	後期	廣田照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 試験と選抜の社会史

【講義内容】 近代日本における青少年は、学歴主義の社会全体への拡大とともに、試験と選抜による競争にまき込まれていった。大正時代にはすでに「試験地獄」という言葉が生まれ、戦後は、あらゆる社会階層の青少年が試験を目指した受験教育に駆り立てられることになった。本講義は、1980年代以降研究が進展してきている、「学歴社会の社会史」研究のいくつかの文献を講読することを通して、近代教育システムと青少年の日常生活との関連、選抜システムの日本の特質などを考察することを目的としている。最後に、日本だけでなく、世界の他の国の教育システムにおいても広がっている学歴主義を、単に日本特有の事情からではなく、近代産業社会における共通の問題としてどのように考えるかという点について考察する予定である。

【講義計画】 最初に問題の所在を概説した後は、主として、文献の講読と参加者による討議を中心に進める。細かい日本史の知識は必要ないが、かなり速いペースで講読を進めようと思っているので参加者は覚悟が必要である。また、本題をケチる人には不向きである。

【評価方法】 授業中、および終了後のレポートを重視する。また、出席も評価に加味する。

【テキスト】 天野郁夫『試験の社会史』（東京大学出版界、1983）¥2,200、乾 彰夫『日本の教育と企業社会』（大月書店、1990）¥2,600、斉藤利彦『試験と競争の学校史』（平凡社、1995）¥2,163 他

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33465	日本文化史文献講読B I	選・必	3・4	2	前期	土田友章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 論語講読（上）

【講義内容】 日本人の精神史に大きな影響を与えてきた『論語』を、後半の章節から読み始める。儒学思想の基本になじむこと、よい解釈とは何かを学ぶこと、などを目的とする。できる限り、他の注釈および英訳なども参考にしたい。

【評価方法】 クラスでの積極的な参加ならびに期末の小論文による。

【テキスト】 テキストは、吉川幸次郎による『論語』（朝日文庫）を用いる。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33467	日本文化史文献講読B II	選・必	3・4	2	後期	土田友章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 論語講読（下）

【講義内容】 日本人の精神史に大きな影響を与えてきた『論語』を、前半の章節から読み始める。しだいに江戸期の諸家の注釈を参考にしておく。（1955年度前期の講読BII〔儒学の古典〕との重複履修はできない）

【評価方法】 クラスでの積極的な参加ならびに期末の小論文による。

【テキスト】 テキストは、吉川幸次郎による『論語』（朝日文庫）を用いる。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33471	日本文化特殊講義I A（近代日本と女性）	選・必	2～4	2	前期	森上優子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 近代日本を、女性たちは、どのような問題を抱え、また、何を指して生きてきたのであろうか。彼女たちの生きざまを通して近代日本を考えてみたい。本講義では、近代女性史を概観したうえで、おもに明治、大正期における女子教育論、女性による女性論、男性による女性論を取り上げ、それぞれを比較し考察することを試みる。授業の進め方は、講義形式を中心にする。

【評価方法】 クラスへの積極的な参加、ならびに期末に行う試験によって評価する。

【テキスト】 適宜プリントを配布する予定。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33485	日本文化学セミナー A 1	選・必	3・4	2	前期	土田友章
他の科目との関連	(主として3年次生の履修をすすめる。)			他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 日本人の美と心：世阿弥のばあい

【講義内容】 世阿弥の代表的論著である『風姿花傳』を、原文について、また英訳を検討しながら、正確に理解することを試みる。能芸論ではあるが、教育論、人生論でもある、この日本人にとっての古典をさまざまな角度から読み解くことによって、理解・解釈の方法をも学びたい。

【評価方法】 予習が重要。担当の箇所についてクラスで発表する。期末に小論文を提出する。

【テキスト】 別に指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33487	日本文化学セミナー A 3	選・必	3・4	2	後期	櫻井進
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 日本的美意識の形成

【講義内容】 近代日本における美意識の形成に関わったと思われる志賀重昂『日本風景論』・和辻哲郎『古寺巡礼』・九鬼周蔵『「いき」の構造』・ブルノー・タウト『日本文化私感』・柳宗悦『民芸四十年』などを検討することによって、近代社会における美と伝統の形成の問題を考察する。

【講義計画】 授業のはじめに配布した文献リストから、一つのテキストを選び、各自問題点を提示し、発表を行う。また、適宜、日本美術関係の展覧会の参観を行う。

【評価方法】 担当のテキストに関する発表、及び期末の小論文による。また、クラスでの議論に対する積極的な姿勢が期待される。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33501 33505	英語 I A・B	選・必	2	各1	前期 後期	H. Wray
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 In this course, students will first study what it means to be truly international by reading appropriate materials on the subject. Second, they will study, discuss and write about current information and news items which appear in various English newspaper published in Japan.

As a general rule, students will be expected to write a two or three paragraph essay each week regarding the material assigned for reading.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33601	日本語教育入門	選	2	2	前期	加藤 俊一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 外国語としての日本語教育の現状と問題点を概観する。音声・語彙・表記・教材等について教師に求められる基本的知識を学習するとともに、四技能の指導の仕方についても考えることにする。講義は日本語教育検定試験の出題範囲と出題傾向を踏まえて進める。

【講義計画】

1. 日本語の構造に関する知識——音声、語彙・意味、文法・文体、文字・表記
2. 言語生活
3. 言語的知識・能力——社会言語学・対照言語学の方野にかかわる知識
4. 日本語の教え方に関する知識・能力——教授法、教育教材・教具、四技能の指導の仕方、場面シラバス・機能シラバスなど

【評価方法】 レポート（30%）、期末試験（50%）、平常点（20%）

【テキスト】 石田敏子著『日本語教授法（改定新版）』（大修館書店、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33605	日本語教授法	選	2	2	前期	加藤 俊一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 外国語教授法の歴史を概観した後、1940年代以降に刊行された日本語学習用の教科書がどのような教授法に基づいて作成され、指導法や学習法についてどのような指示を与えているか原文に当たって調べることとする。後半には、直接法の指導のしかたなど、より実践的指導法についても述べることにする。

【講義計画】

1. Spoken Japanese
2. Beginning Japanese
3. Reading Japanese
4. Japanese : The Spoken Language
5. Basic Japanese for College Students
6. A Japanese Reader
7. Essential Japanese
8. 直接教授法について
9. 文化初級日本語
10. Japanese Language Patterns
11. Introduction to Modern Japanese
12. Situational Functional Japanese
13. ようこそ

【評価方法】 レポート（30%）、期末試験（50%）、平常点（20%）

【テキスト】 西口光一著『日本語教授法を理解する本 歴史と理論編』（バベル・プレス、1995）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33611	日本語教育文法	選	2	2	前期	伴 紀 子
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 外国人に日本語を教える時の文法は、学校文法でも国文法でもない、外国語教育として日本語を扱うための文法でなければならない。常に学習者を目前に据えて、いかに日本語の運用能力をつけさせるかという立場に立って日本語を眺めると、日本語教育の文法が生まれてくる。本講では、初級日本語の段階で必要な文法に焦点を当てて考察する。

【講義計画】

1. 日本語の決まりとその捉え方
2. 日本語文の構成要素とその種類分け
3. 述語の種類とその補語との結びつき
4. 助詞の機能
5. 動詞の機能

【評価方法】 平常成績（出席、質疑応答、レポート、試験）で総合的に評価する。

【テキスト】 国立国語研究所編『日本語の文法（上）』

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33621	第二言語習得研究 I	選	2	2	前期	坂 本 正
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 第二言語習得に関する3つの仮説、また第二言語習得に影響を及ぼす要因など概観し、日本語教育との関連を探る。

【講義計画】 テキストに沿って、講義を進めていくが、学生は毎週約10頁ほどの英文を読んで、しっかりと準備してくることを前提とする。

【評価方法】 小テストと筆記試験

【テキスト】 Pasty Lightbown & Nina Spada: How Languages are learned, Oxford University Press, 1993.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33625	第二言語習得研究 II	選	2	2	後期	坂 本 正
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 これまで発表された日本語習得研究から主なものを選び、その成果と日本語教育との関連について考える。

【講義計画】 毎週論文を2本ほど読む。学生は要旨をクラスで口頭発表し、その内容についてみんなで議論する。

【評価方法】 小テストと筆記試験

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33633	日本語教育特殊講義A (Proficiency-Oriented Instruction)	選	2~4	2	前期	加藤 俊一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 ACTFL（全米外国語教育協会）が作成した「言語能力基準」の概略を説明し、それが日本語のレベル・技能別教育目標、教材開発、指導法、テスト等とどのように関わっているかを論じる。

- 【講義計画】
1. 「言語能力とは」
 2. 機能、コンテキスト、内容、正確さ、テキストの種類
 3. FSIのレベル分けとACTFLのレベル分け
 4. 日本語能力検定試験との比較
 5. 技能別指導法の実例
 6. その他

【評価方法】 レポート及び期末試験

【テキスト】 プリント

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33635	日本語教育特殊講義A (学習ストラテジー)	選	2~4	2	前期	伴 紀子
他の科目との関連				他学科履修	不可	重複履修 不可

【講義内容】 学習者中心の言語教育が重要視されている現在、学習者に目を向けることなしに外国語を教えることはあり得ない。教える側は学習者がどのように言語を学習しているかを知っている必要がある。本講では、学習者の言語学習能力が学習過程でどのように駆使されているかを言語学習ストラテジーの枠組みの中で考える。

- 【講義計画】
1. 第一言語の学習と第二言語の学習
 2. 言語学習の側面、記憶との関連
 3. 内的学習とメタ認知ストラテジー
 4. 外的学習と認知ストラテジー
 5. 言語の四技能と学習ストラテジー
 6. 学習スタイルとストラテジー

【評価方法】 平常成績（出席、質疑応答、レポート、試験）で総合的に評価する。

【テキスト】 L. オックスフォード『言語学習ストラテジー』（凡人社）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33639	日本語教育特殊講義A（評価法）	選	2~4	2	後期	坂本 正
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 テストの目的と機能、テストの種類、テストの形式、テストの妥当性と信頼性、日本語教育によく使われるテスト、テスト結果の処理、テストの改良などを中心に講義を進める。

【講義計画】 適宜資料を使うが、教科書に沿って講義を進める。

【評価方法】 学期末試験

【テキスト】 石田敏子著『入門日本語テスト法』（大修館）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33641 33643	日本語教育特殊講義A（ディベートI・II）	選	2～4	各2	前期 後期	中野 清
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副題】 ディベート——語る、聴く、判断するちからを培う

【講義内容】 ことばは人と人との人間的交流のもとにある。ことば（ロゴス）そのもののちからに信頼し、自らが活き活きと語り、他者のことばを積極的に聴き取り、またそこで語り出されることがらの真偽をことわけるちからを磨くことを通して、自分自身の人間として、また教育者としての成長をめざす。受講者はさまざまな論題について実際にディベートを行いながら、準備から判定段階にいたるまでの課題と注意点を学ぶ。
*前期のみ、後期のみ受講は可能であるが、両者を通して受講するほうがより高い学習効果が期待できる。

【講義計画】 （前期）ディベートの方法を学ぶ
 1. 他者の前でのプレゼンテーション
 2. 「立論」（スピーチ）の組み立てと実際
 3. 「聴く」実習
 4. 「反対尋問」の注意点と実際
 5. 「最終弁論」の注意点と実際
 6. ディベート大会

（後期）ディベート能力を高める。
 論題種別ごとに、準備から判定にいたる過程を体験する。
 1. 事実論題
 2. 価値論題
 3. 政策論題
 4. ディベート大会

【評価方法】 出席と実習での状況、学期末でのレポートを総合して評価する。

【テキスト】 その都度参考書を指示する。独自のプリントを配布。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33651	日本語教育特殊講義B（身体とことば）	選	2～4	4	前期	山口 真人
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 この講義では、人間の言語を単に情報の伝達という機能からのみ捉えるのではなく、人間の自己表現や人間関係の形成という機能面からも探ってみたい。授業は単なる講義ではなく、「からだ」や「ことば」や「人間関係」に気づくための体験学習を中心に進めるので、参加学生は、実際に身体を動かし、話しかけ、歌い、演じることなどを個人やグループで行い、自らの主体的な参加体験を分析考察することが求められる。

【講義計画】 1. 体験学習への導入
 2. コミュニケーション実習(1)
 3. コミュニケーション実習(2)
 4. からだに気づく
 5. 話しかけのレッスン(1)
 6. 歌と詩（ことばとリアリティ）
 7. 話しかけのレッスン(2)
 8. 戯曲のせりふを使って(1)
 9. 戯曲のせりふを使って(2)

10. 戯曲のせりふを使って(3)
 11. 戯曲のせりふを使って(4)
 12. 出会いのレッスン

【評価方法】 出席とレポート

【テキスト】 竹内敏晴『ことばが劈かれるとき』（ちくま文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33675	日本文化特殊講義ⅡA（天皇制・十五年戦争と教育）	選	2～4	2	前期	廣田 照幸
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 文学部教育学科開講科目
 13631「教育史特殊講義」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33676	日本文化特殊講義ⅡA（景観の比較文化）	選	2～4	2	前期	横山 輝雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副題】 景観の比較文化

【講義内容】 「景観」や「風景」は、環境世界に対する人間の把握によって成立する。例えば富士山は、地質学的には一つの山岳として客観的な存在であるが、日本人と欧米人にとってその意味は同一ではない。同じことは動植物や庭園、建築物についても言える。日本人と欧米人の景観把握の違いを検討する。

【講義計画】 はじめに風景についての人類学的共通基盤について述べ、次に日本における「風景」及び近代景観の成立について説明する。そしてそれを欧米における「景観」と比較することによってそれぞれの特徴を比較文化的に明らかにする。いわゆる「田園風景」といったものが、実は近代と私的なものであることも示される。

【評価方法】 定期試験（筆答）を中心とする。

【テキスト】 オギュスタン・ベルグ（藤田英勝訳）『日本の風景・西欧の風景』（講談社）
 和辻哲郎『風土』（岩波文庫）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33677	日本文化特殊講義ⅡA（江戸の都市民俗）	選	2～4	2	前期	櫻井 進
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 17世紀以降の、資本主義化と都市化によって生み出された巨大都市江戸の民俗的世界のありかたと都市の権力構造のありかたについて、滝沢馬琴・平田篤胤や「江戸派国学者」（内野悟郎）のテクストを媒介にしながら検討する。

【講義計画】 (1)巨大都市・江戸の権力構造
 (2)平田篤胤の民俗学的世界
 (3)「江戸派国学者」の民俗学的世界
 (4)滝沢馬琴『南総里見八犬伝』の民俗学的世界と権力

【評価方法】 期末の小論文による。

【テキスト】 授業中に随時指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33678	日本文化特殊講義Ⅱ A (山の思想史)	選	2~4	2	後期	櫻 井 進
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 日本人の精神的・宗教的世界にとって、山はきわめて重要な意味を持ちつづけている。日本人にとって、浄土は西方にあるだけではなく、山越阿弥陀像や『遠野物語』の山中他界に見られるように、山の世界が他界として想定されてきた。山岳信仰としての修験道は、日本の宗教的・民俗的世界に対して、きわめて大きな影響を持っていたが、明治期の神仏分離政策や修験道禁止令によって抑圧された。こういった山中他界の歴史の変容をたどり、それが明治以降の近代化によってどのよう崩壊したのかを検討すると同時に、修験道系の信仰や祭礼に関する実地調査も行う。

【講義計画】 (1)山岳信仰の歴史の変遷
(2)近世における修験道の変容
(3)明治期における神仏分離修験道禁止令
(4)修験道系の信仰・祭礼の実地調査

【評価方法】 期末の小論文による。

【テキスト】 授業中に随時指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33679 33680	日本文化特殊講義Ⅱ A (13-17世紀の東アジアの国際関係) 日本文化特殊講義Ⅱ A (13-17世紀の東アジアの海域世界)	選	2~4	各2	前期 後期	高 橋 公 明
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 日本列島内の閉じた空間の出来事として日本中世史を考えるのではなく、その周辺地域との関わりを重視する。そのような見方を通じて、中世の東アジアのなかで日本がどのように位置付け得るのか考える。前期は、さまざまな外交関係に焦点を合わせ、政治的な場としての東アジアに注目する。後期は、海を舞台にした交通関係に焦点を合わせ、中心一周縁的な見方の相対化を計る。

【講義計画】 13-17世紀の東アジアの国際関係 (前期)
(1)東アジアの歴史的地理的概観：地形・さまざまな政治権力
(2)華夷秩序と日本の伝統的外交：冊封関係・王号・天皇・将軍・曆
(3)武家政権の外交：日本国王・征夷大將軍
(4)朝鮮と日本列島：多元的外交関係・朝鮮遣使ブーム
(5)交易立国琉球の外交関係：明・東南アジア・日本・朝鮮

13-17世紀の東アジアの海域世界 (後期)
(1)海を伝わる言葉：サンバン・サンバ・サバニ
(2)中世文学のなかの日本の境界：蝦夷・鬼界ヶ島
(3)中世文学のなかの島：『今昔物語集』
(4)海のなかの権力：琉球王国・対馬宗氏
(5)境界的な島：濟州島・海浪島・鬱陵島
(6)海上の道：浙江・福建から九州へ

【評価方法】 (1)比較的短い宿題 (A4で1枚程度) 前後期各3~4回 50%
(2)15分程度の口頭報告 各1回 20%
(3)学期末報告 (A4で5枚程度) 30%

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33681	日本文化特殊講義ⅡA (日本の美術——絵巻物——)	選	2～4	2	前期	池田洋子
他の科目との関連	美術A2を履修しておくことが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 日本の絵画の中で、空間性と共に時間性を合わせ持つ絵巻という形態の作品の特性について考察する。絵巻各段の詞書部分を講読して、次に絵画部分を構図・色彩等を分析して、詞書部分と絵画部分の関係を考察する。更に、語りものとしての文学と、それを題材にした造形作品としての絵巻物との比較を通して、美術——絵画——がその時代の人々にどのように考えられているかを考察する。

- 【講義計画】
1. 絵巻物の詞書を読む
 2. 絵画部分の分析
 3. 詞書部分と絵画部分の照会
 4. 『宇治拾遺物語』の物語と詞書の比較
 5. 絵巻物の主題の検討
 6. 造形作品と文学作品との比較

【評価方法】 口頭発表・レポート等から総合的に評価する。

【テキスト】 コンパクト版《日本の絵巻》4. 信貴山縁起絵巻（適宜プリント教材配布）10. 葉月物語絵巻、隆房卿艶詞絵巻

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33683	日本文化特殊講義ⅡA (俵屋宗達の作品研究)	選	2～4	2	後期	池田洋子
他の科目との関連	美術B2を履修しておくことが望ましい			他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 江戸初期の京都町衆の絵屋の主人として、絵師としての宗達の作品を一点ずつ分析することで、琳派の祖としての宗達の作品へのかかわり方、考え方を考察する。

- 【講義計画】
- 宗達の作品を概観する
 - 宗達と光悦との共作時代の作品
 - 宗達色紙・扇画面等
 - 水墨画作品
 - 養源院襖絵
 - 金地濃彩作品
 - 金地水墨作品
 - 風神・雷神図

各作品についての簡単な解説を準備し口頭発表する。それに基づき、詳細な画面の分析と他の作品との関係に言及して、宗達の作品制作への姿勢や考え方を検討する。

【評価方法】 レポート、口頭発表等を総合的に評価する。

【テキスト】 プリント配布

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33684	日本文化特殊講義ⅡA (日本仏教の思想Ⅱ：禅の思想)	選	2～4	2	後期	土田友章
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【講義内容】 歴史的概観の後、今期は栄西、道元、白隠、良寛などに焦点を当て、日本文化と深く呼应しあった禅の思想を考える。

【テキスト】 教材は、文庫本『正法眼蔵随聞記』のほか複写印刷物を使用する。

科目コード	科 目 名	指 定	年次	単 位	期 間	担 当 者	
33691	日本語教育セミナー	選	3・4	2	後期	加藤 俊一	
他の科目との関連	「日本語教育入門」「日本語教育文法」「日本語教授法」を既に履修していることが望ましい。			他学科履修	可	重複履修	可

【講義内容】 「日本語教育」・「日本語学」・「月刊言語」及び各大学の紀要などから日本語教育に関する論文を選び、内容を検討していく。各自が卒業論文の研究題目と関わりのある論文や研究発表を積極的に探し、論文作成の準備を始めることをすすめる。

【講義計画】 はじめは配布プリントの内容を口頭発表してもらいが、各自の研究題目に沿った論文の内容討論になるべく早く移行する。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年次	単 位	期 間	担 当 者	
33692	日本語教育セミナー	選	3・4	2	前期	伴 紀子	
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修	可

【講義内容】 日本語教育に関する主要論文を読み、よりよい日本語教育を模索する。

【講義計画】 各自の担当を決め、論文の要旨について口頭発表を行う。

【評価方法】 レポート

【テキスト】 プリント教材を配布

科目コード	科 目 名	指 定	年次	単 位	期 間	担 当 者	
33701 33705	日本語教育実地研究Ⅰ・Ⅱ	選	4	各2	前期 後期	伴 紀子	
他の科目との関連	日本語教育実地研究ⅠはⅡ履修のための前提科目			他学科履修	不可	重複履修	不可

【講義内容】 ややもすれば、日本人であれば外国人に日本語を教えることができるように考えられがちだが、これは容易なことではない。教える者には日本語に関する理論的知識と運用能力が必要である上に、教授能力を身に付けておく必要がある。受講生は既に理論的知識をかなり勉強している（日本語教育関連科目を履修していることが望ましい）と思うが、実践的な日本語教育能力をつける前に、日本語教育実地研究Ⅰでは日本語教育の基礎文法をふりかえった後に、マイクロティーチングで練習を重ね、実践の段階へと結びつけていく。Ⅱでは別科の授業見学や授業参加、そして実習を行う。

【講義計画】 日本語教育実地研究Ⅰ
 1. 日本語教育文法
 2. 指導項目の導入と練習
 3. 教具の使い方
 4. 学習者とのインターアクション
 5. 教案作成
 6. マイクロティーチング

- 日本語教育実地研究Ⅱ
 1. 日本語授業見学
 2. 別科生への個別練習指導
 3. 教育実習
 4. 自己の教え方の評価

【評価方法】 出席、教案提出、模擬授業と実地授業の総合評価

【テキスト】 日本語教育学会編『タスク日本語教授法』（凡人社）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33713	日本語学上級セミナー	選	4	2	前期	町田奈々子
他の科目との関連	現代日本語の構造Ⅱを履修済みのこと。			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 日本語学のトピックス

【講義内容】 日本語学の分野で卒業論文を書くことを予定している学生が各自の研究題目に関連した論文を批判的に読み発表する。積極的なクラス討議への参加が期待されている。理論的な枠組みは特に定めない。

【講義計画】 卒業論文の題目に関連した論文（日本語、英語）を担当者が発表し、クラス討議を行う。補足説明の講義、学生によるデータの分析なども含む。

【評価方法】 出席、及び学期末のタームペーパー。

【テキスト】 プリントで配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33722	日本文化学上級セミナー	選	4	2	前期	櫻井進
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 可

【副 題】 都市空間論を読む

【講義内容】 都市空間をどのように認識するのかは、人間の存在形態のありかたにとってきわめて重要な意味を持っている。ここでは、(1)都市空間に関する一般的な議論と(2)江戸・東京論などのような都市空間に関する個別的な議論とを検討することによって、都市空間の現代的な可能性を追求する。

【講義計画】 授業のはじめに配布した文献リストから、一つのテキストを選び、各自問題点を提示し、発表を行う。

【評価方法】 担当のテキストに関する発表、及び期末の小論文による。また、クラスでの議論に対する積極的な姿勢が期待される。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
33921	日本語史	*	3	4	集中	進藤義治
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 （*1993、1994年度入学の学生は選択科目となり、その他の学生は自由科目となる。）

文学部国語学国文学科開講科目
17601「国語史Ⅰ」
17605「国語史Ⅱ」を参照。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
33931	日本文学	*	3	4	通年	助川 徳 是
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 (*1993、1994年度入学の学生は選択科目となり、その他の学生は自由科目となる。)

文学部国語学国文学科開講科目

17725「国文学特殊講義DⅠ」

17727「国文学特殊講義DⅡ」を参照。

講義名	担当	備考
日本文学	助川 徳 是	【講義】
日本文学	助川 徳 是	【寄内講義】
日本文学	助川 徳 是	【通年講義】
日本文学	助川 徳 是	【衣冠講義】
日本文学	助川 徳 是	【イメテラ】

講義名	担当	備考
日本文学	助川 徳 是	【講義】
日本文学	助川 徳 是	【寄内講義】
日本文学	助川 徳 是	【通年講義】
日本文学	助川 徳 是	【衣冠講義】
日本文学	助川 徳 是	【イメテラ】

講義名	担当	備考
日本文学	助川 徳 是	【講義】
日本文学	助川 徳 是	【寄内講義】
日本文学	助川 徳 是	【通年講義】
日本文学	助川 徳 是	【衣冠講義】
日本文学	助川 徳 是	【イメテラ】

講義名	担当	備考
日本文学	助川 徳 是	【講義】
日本文学	助川 徳 是	【寄内講義】
日本文学	助川 徳 是	【通年講義】
日本文学	助川 徳 是	【衣冠講義】
日本文学	助川 徳 是	【イメテラ】

文学部国語学国文学科開講科目 17725「国文学特殊講義DⅠ」 17727「国文学特殊講義DⅡ」を参照。 【寄内講義】

外 国 語 学 部

共通基礎科目

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34001 34002	言語研究の基礎A・B	選・必	2	各2	前期 後期	有 元 将 剛
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

- 【副 題】 A) 英語と日本語の統語構造と人間言語 (その1)
B) 英語と日本語の統語構造と人間言語 (その2)

- 【講義内容】 A) 英語と日本語の統語(文法)構造を論じる。日本語と英語は一見大変違う言語のように思われるが、英語と日本語とは無原則に異なっているのではないということ、また、両者に共通に働く原理があることなどを論じる。
B) 前期を更に発展させ、英語の統語構造を論じるとともに、最近の言語理論(生成文法)の基礎について述べ、言語分析の方法を学ぶ。(前期の続き。前期と重複履修可。できれば後期のみ履修は避ける。)

【講義計画】 講義形式ではあるが、適宜、質疑応答を含める。また、英語、日本語のデータを分析する。一方的に話すのではなく、一緒に考えていきたい。

【評価方法】 期末試験、レポートなど。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34003 34004	言語研究の基礎C・D(スペイン語史)	選・必	2	各2	前期 後期	大 岩 勉
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 スペイン語は、ポルトガル語、イタリア語、フランス語、ルーマニア語と同じようにラテン語から変化して成立した、ロマンス系の言語です。このスペイン語が、どのような変化の過程を経て、現在の形になったのか、スペイン語史の基礎的な部分を確実に把握できるように授業を進めてゆきたい。スペイン語が有する特徴は何七日、スペイン語は基本的に、どのような性格の言語なのかを理解するための基礎を固めるのがこの授業の目標となります。

【講義計画】 スペイン語史の基礎Cでは、以下の内容を扱います。

- 1) Las lenguas romances
- 2) El latín vulgar y el latín clásico
- 3) Cuatro clases de "Yod"
- 4) Vocales acentuadas e inacentuadas
- 5) Evolución de las consonantes
- 6) Grupos interiores romances

スペイン語史の基礎Dでは次の内容を扱います。

- 1) Derrumbamiento del sistema de caso
- 2) Característica de los verbos
- 3) Las frases medievales
- 4) Cantar de Mio Cid
- 5) Primera crónica general de España

【評価方法】 定期試験の結果と授業時の質疑応答

【テキスト】 プリントを配布する。テキストに準ずるものとして、以下のものを参考までに挙げておく。

- 1) R. Menéndez Pidal: Manual de Gramática Histórica Española
- 2) Samuel Gili Gaya: Nociones de Gramática Histórica Española
- 3) Antonio Quilis, Joseph A. Fernández: Curso de fonética y fonología española
- 4) Rafael Lapesa: Historia de la Lengua Española
- 5) Vicente García de Diego: Gramática Histórica Española

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34005	言語研究の基礎E	学部 共通	2	2	前期	斎藤 衛
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 言語学の基礎を学習する。言語学の基本的領域である音韻論、形態論、統語論、意味論、心理言語学の各領域を概観し、普遍文法（UG）の視点から、個別言語の現象を分析していく。

【評価方法】 練習問題と試験 【内容記載】

【テキスト】 後日指定する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34051 34052	文学研究の基礎A・B	選・必	2	各2	前期 後期	橋本 恵
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 イギリス文学文学史の流れにそって、時代思潮をふまえて概観する。多数の作家、作品を網羅的に取り上げるのではなく、各地代を代表する作品に焦点を当て、実際にそれを読むことによってイギリス文学の姿をとらえる。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34053 34054	文学研究の基礎C・D (スペイン・ラテンアメリカ中世・近世)	選・必	2	各2	前期 後期	佐竹 謙一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 (前期) 中世文学、ルネッサンス・バロック文学を中心に講義する。特に、『エル・シッド』、『よき恋の書』、『ラ・セレスティナ』、『ラサリーリョ・デ・トルメス』、『ドン・キホーテ』、『セビーリャの色事師』、『人生は夢』に関しては詳しく説明する予定である。
(後期) 18世紀の新古典主義から始め、19世紀のロマン主義、写実主義、自然主義、そして98年代および27年代の作家へと話をすすめて行く。ここではベッケル、ソリーリャ、ガルトス、バルド・バサン、ウナムーノ、パローハ、アソリン、ガルシア・ロルカ等が中心となる。ラテンアメリカ文学については時間に余裕があれば言及する。

【評価方法】 筆記試験による評価。

【テキスト】 授業中に指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34101	外国語教育の基礎A	選・必	2	2	前期	田中 春美
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 長い間、外国語教育——その1つが英語教育——は学問ではないと考えられてきた。しかし、最近の実技だけではなく、実証的な研究の裏づけも増え、さまざまな分野で学問的な傾向が以前より強まってきている。「英語教育学」という分野がある、と主張する人たちも少なくない。
この基礎コースでは、外国語教育のいくつかの分野を重点的に取り上げ、それぞれの研究の歴史

や、現状と問題点などを考えてみたい。

【講義計画】 外国語教育の研究は、応用言語学の1部と見なされるので、まず応用言語学を概観した上で、主な外国語教授法の特徴の比較検討、それと密接にかかわる教材やシラバス（教授細目）の問題、時間が許せば、さらにその基礎科学となる対照分析・誤りの分析・談話分析などにも触れる。
講義だけでなく、テーマごとにレポートまたは口頭発表のために、各人で特定の問題を調べて、報告してもらう予定。

【評価方法】 定期試験のほか、レポート・口頭発表・出席状況などを考慮して、総合的に評価する。

【テキスト】 特になし。プリント、および参考書を指定。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34102	外国語教育の基礎B	学部 共通	2	2	後期	駒井 明
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【講義内容】 今迄に提示された外国語教授法は数多いが、その中から主なものを選び、それぞれの理論的基礎を考察し、実践上の効果や問題点について論ずる。又、母国語習得との比較を通して、外国語学習の本質を明らかにする。

【評価方法】 学期末テスト

【テキスト】 プリント

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34151	コミュニケーション研究の基礎A	選・必	2	2	前期	岡部 朗一
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 コミュニケーションの本質をよりよく理解するために

【講義内容】 3、4年次に開講される外国語学部英米科のコミュニケーション関連の「演習」、あるいは「人間関係とコミュニケーション」「政治とコミュニケーション」「異文化とコミュニケーション」「コミュニケーション特殊研究」といったコミュニケーション関連の専門科目をよりよく理解するための基礎科目として、本授業を位置づけたい。人間のコミュニケーションをどのように見たらよいか、その研究はどのようなものか、その領域に対してはどのような研究上の接近法があるかといった諸点を、主に質的な分析/批評学的視点から講義を行う。

【講義計画】 講義では、次のようなトピックを扱いたい。

- コミュニケーションという学問領域
- コミュニケーション研究への接近法
- コミュニケーションの基礎概念
- 対人コミュニケーションの特質とその分析
- 小集団（スモールグループ）の特質とその分析法
- 公的（パブリック）コミュニケーションの特質とその分析法
- 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションの特質とその分析法

【評価方法】 1回の定期試験、クラスで配布される Reading Material に関する数回の小テスト、コミュニケーションに関する分析レポート、それに毎週の授業時に行う出席調査を総合的に考慮して、最終評価を出す。

【テキスト】 1)石井敏その他『異文化コミュニケーション…新・国際人の条件（改訂版）』（有斐閣、1996）
岡部朗一『異文化を読む…日米間のコミュニケーション』（南雲堂、1988）
2)Reading Material（授業時に配布するプリント資料）
3)「講義概要」（授業時に配布するプリント資料）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34152	コミュニケーション研究の基礎B	選・必	3・4	2	後期	近藤 祐一
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 コミュニケーション本質をよりよく理解するために

【講義内容】 この授業は、3・4年次に開講される英米科のコミュニケーション関連科目を履修するための基礎科目であると共に、「コミュニケーション」とは何かを理論と実習を通じて学ぶことを目的とする。我々が普段何気なく行っている「コミュニケーション行動」をどういう視点で捉え、それをさらにどう分析するかを主に量的な研究にして考える。

【講義計画】 次の項目を順を追って進める。
 ★コミュニケーションとは何か
 コミュニケーションというものに対する気づき
 コミュニケーションという領域の視点
 ★コミュニケーションの基礎的な概念
 コミュニケーションのモデルとキーワード
 ★言語によるコミュニケーション
 言葉はどこまでコミュニケーションできるのか
 ★非言語によるコミュニケーション
 言葉以外の伝達手段でコミュニケーションできるのか
 ★複雑なコミュニケーション
 小さな集団や公的なコミュニケーション
 ★テレビとコミュニケーション
 テレビは何をコミュニケーションしているのか
 授業は、講義、実習を中心に行うが、課外でのプロジェクトを科す。授業に関する資料も適時アサインする。課外でのこの授業に必要な学習時間は約5時間。

【評価方法】 この授業の評価は中間と期末試験（各20%）、授業での実習に参加し、それをまとめるジャーナルの提出（30%）、課外での小グループによる実習結果の提出（30%）により行う。

【テキスト】 ハンドアウト

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34153	コミュニケーション研究の基礎C	学部共通	2	2	後期	横山 輝雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 コミュニケーション研究の諸問題

【講義内容】 「コミュニケーション」は、日常語としても用いられるが、同時通信理論や動物行動学から、社会学、哲学、比較文化論、記号学などのさまざまな領域でとりあげられている。そうした諸科学・諸学問におけるさまざまな視角からの「コミュニケーション」に対するアプローチを比較検討し、コミュニケーション研究の方法と、そこにおける諸問題を検討する。

【講義計画】 講義中心の授業であるが、途中でレポート提出を求め、その際に配布した資料及び図書館での自主的な調査が必要となる。

【評価方法】 主としてレポート及び定期試験（筆答）による。

【テキスト】 特定のテキストは用いず、必要な資料を配布し、参考文献を講義で指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34201	政治研究の基礎A	選・必	2	2	前期	金井光太郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 現代社会と世論

【講義内容】 民主政治は世論によって決定されてゆく。アメリカの最も敏感で洞察の深いジャーナリストであった、W・リップマンは、この根本的な前提を徹底的に検討して、民主政治がいかに現実離れた理論に則っているかを明らかにしていった。各人が自らではつかめない現実について決定してゆかねばならない国民国家で、どのような政治が現実であり、どのような展望があるのか。建前の民主政治ではなく、現実の民主政治を学んでゆきたい。

【講義計画】

1. 外界とイメージ
2. 外界把握の可能性
3. ステレオ・タイプ
4. 観念と利益
5. 選択と指導
6. シンボルと支配
7. 情報と政治

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 W.リップマン『世論（上下）』（岩波文庫、白222）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34202	政治研究の基礎B	選・必	2	2	後期	岩野一郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 政治のファンダメンタルズ——アメリカ合衆国を例として

【講義内容】 本講義は外国語学部のカリキュラムのうちで将来地域研究の分野に進もうとする皆さんに対し、基礎的な知識を与え、政治研究の基礎をなる事柄を知ってもらおうという目的をもっている。アメリカの政治の枠組の構成要素である司法・立法・行政の三権、それを支える立憲主義、国民の政治過程への参加を保証するための諸制度——選挙・政党・圧力団体など——とその背後にある考え方を学んでいく。

【講義計画】 まず一国の政治の基礎的文書である憲法の成立とその背後の問題を論じ、次いで行政（大統領制）、立法（連邦議会）、司法（最高裁判所）の順に議論を進める。アメリカの政治制度の特色となっている連邦制の意味を考察するために、州と地方政治を眺め、それらをまとめる意味で国民の政治参加を制度的に保証している選挙権や代表制の展開を検証する。

【評価方法】 評価は中間と期末の二回の試験を実施して行なうが、小レポートの提出を課すことも考えている。

【テキスト】 United States Information Agency, *An Outline of American Government* を使用することにしたいが、適時プリントなどを配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34251 34252	社会学研究の基礎A・B	選・必	2	各2	前期 後期	R. Riemer
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 不可

【副 題】 INTRODUCTION TO SOCIOLOGY

【講義内容】 The course deals with all those aspects of the human being which relate to his social environment. **First** it will be shown that the quest for systematic knowledge of social behavior is both possible and meaningful through the social science of sociology. **Second**, it will be shown how men and women achieve maturity and integration in their lives through interaction with others individually and in groups. **Thirdly**, the course will deal with the basic concepts of sociology, such as culture, socialization, social class and collective behavior. **Fourthly**, inter-group behavior will be studied, especially the interaction among races, ethnic groups, religions and economic groups. **Finally**, the social institutions of family, education, government will be analyzed.

The content of the course will make the individuals more aware of the wonders of human interaction, more conscious of the uniqueness of the individual, and more appreciative of social groups. At the same time the course will point out the abuses of certain types of group behavior, e.g., ethnocentrism, racism, segregation.

【講義計画】 In the first semester the students are initially introduced to the essence of sociology. The general sociological theories and methods help students to learn how to think sociologically and view society from the sociological point of view. Next, the social foundation for human behavior is examined. This includes the topics of culture, social structure, groups and organizations, and socialization. Deviant and criminal behavior is also touched upon to show that even unsocial behavior is motivated by social concerns. In the second semester various forms of human inequality are dealt with. Some topics are the inequality between rich and poor, between dominant and minority groups, between males and females, and between old and young. Then, the major social institutions are taken, i.e., family, religion, politics, economics, education. The course will finally take up urban behavior and social change.

【評価方法】 Grade evaluation will be based on the following:

1. Attendance of the lectures and class participation. The lectures will follow and supplement the chapters of the textbook.
2. Two tests each semester. The tests are not cumulative. A test will be based on the material taken from the beginning of the semester or from the previous test.
3. The final examination will be a report in essay form on a topic assigned by the teacher.

【テキスト】 Alex Thio, Professor of Sociology at Ohio University, *Sociology: A Brief Introduction* 2nd Ed. Born of Chinese parentage in Malaysia, he gives the cross-cultural aspect that we seek in this course.

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34301	思想研究の基礎A	学部 共通	2	2	後期	土田友章
他の科目 との関連				他学科 履 修	可	重 複 履 修 可

【副 題】 思想の視座

【講義内容】 三浦梅園、本居宣長、丸山真男、鶴見俊輔、などの文章を読みながら、それぞれの時代状況と、その中での日本人の思想行動を考える。

【評価方法】 それぞれの教材の予習、クラスでの発表、短いレポートなどが要求される。

【テキスト】 教材は、主として複写印刷物を配布する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34351	経済研究の基礎 A	選・必	2	2	前期	西村 貞雄
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 ミクロ経済学

【講義内容】 現代の経済問題を論じる上で必要な経済学の基礎知識を習得することを目的とする。前期の「経済研究の基礎 A」ではミクロ経済学を講義する。すなわち市場の経済分析の説明を行う。ミクロ経済学は「経済研究の基礎 B」で講義するマクロ経済学とともに経済学の基礎理論の 2 つの柱を構成するが、特に経済学特有の思考方法がよくあらわれる分野である。この授業では理論の細部に分け入るよりも、市場の経済分析の基本的な考えを説明することを重視したい。そのために適宜現実の問題から具体的経済問題を取上げるようにしたい。

【講義計画】 ミクロ経済学
 1. 消費者行動と需要曲線
 2. 企業行動と供給曲線
 3. 市場均衡と競争市場の効率性
 4. 独占などの不完全競争市場
 5. その他

【評価方法】 1、2 回練習問題などについてレポート提出を求める予定。成績はこのレポートと定期試験に基づいて評価する。

【テキスト】 伊藤元重『入門経済学』（日本評論社、1988）このテキストの第 8 章から第 11 章までがミクロ経済学の基礎を取り扱っている。その他可能なら第 15 章（市場の失敗と補正）も説明する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34352	経済研究の基礎 B	選・必	2	2	後期	西村 貞雄
他の科目との関連	経済研究の基礎 A 履修が望ましい			他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 マクロ経済学

【講義内容】 現代の経済問題を論じる上で必要な経済学の基礎知識を習得することを目的とする。後期の「経済研究の基礎 B」ではマクロ経済学と国際経済学の初歩を講義する。マクロ経済学は国民所得や景気動向、インフレ等の決定要因を論じるものである。マクロ経済学についても基本的な考え方の説明を中心としたい。
 学部の性格から国際経済学に関心を抱く学生が多いと思われるので、マクロ経済学の国際的連関や貿易に関する基本的な考え方（比較優位論）の説明を行う。
 国際経済学は応用経済学の一つであり、マクロ経済学のみならず、前期で講義するミクロ経済学の考え方が理解されている必要がある。したがって前期の「経済研究の基礎 A」を履修することが望ましい。

【講義計画】 マクロ経済学
 1. マクロ経済学とは——国民所得勘定
 2. 有効需要（財市場）の理論と国民所得の決定
 3. 金融市場の機能
 4. マクロ市場均衡と財政金融政策
 国際経済学 以下の 2 分野について基本的な考え方を説明する。
 1. 国際マクロ経済学——輸出入とマクロ経済、為替レート
 2. 貿易と国際投資——比較優位論

【評価方法】 1、2 回練習問題などについてレポート提出を求める予定。成績はこのレポートと 2 回の定期試験に基づいて評価する。

【テキスト】 伊藤元重『入門経済学』（日本評論社、1988）このテキストの第2章から第7章までがマクロ経済学の基礎を取り扱う。国際経済学は第18章・19章である。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34401	国際関係論の基礎A	選・必	2	2	前期	宮川佳三
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 国際関係を見る目

【講義内容】 第二次大戦終結後の国際連合を中心に世界の平和と安定が期待されたが、期待に反する形で米国とソ連のイデオロギーの対立が「冷戦」状況を生みだした。（ある学者は「冷戦」を「長い平和」と呼んでいる。）その「冷戦」は約5年前に終わった。この5年間世界には次々に問題が多発し、国際関係は複雑で「混沌」と言ってよい状況になってきた。「冷戦」にかわる「新しい秩序」はまだ打ち立てられていない。国際関係は今までとは異なった問題の増大を予測させる。人が食糧・環境問題等は国家単位で解決できる問題ではなく、地球規模での解決が必須である。「文明の衝突」の問題も提起されている。

【講義計画】 前期では、現在の国際関係ができてきた推移を、歴史的な観点から、特に大航海時代以降の国際社会の発展——大国の興亡の点で——の観点からとらえる。パックス・ブリタニカの時代、パックス・アメリカナの時代、第二次大戦後の米ソの対立の世界の在り様、バランス・オブ・パワーとはどういうことか、戦争と平和の問題、戦後の貿易体制等の理解を深める。映像ソフトを使用する。

【評価方法】 レポートorブック・レビュー点、定期試験、出席に基づき総合的に評価。

【テキスト】 日本経済新聞社編『国際関係入門』
猪口邦子『戦争と平和』（東大出版会）
高坂 正『国際政治』（中公新書）
入江 昭『日本の外交』（中公新書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34402	国際関係論の基礎B	選・必	2	2	後期	宮川佳三
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 グローバル時代の国際関係

【講義内容】 第二次大戦終結後の国際連合を中心に世界の平和と安定が期待されたが、期待に反する形で米国とソ連のイデオロギーの対立が「冷戦」状況を生みだした。（ある学者は「冷戦」を「長い平和」と呼んでいる。）その「冷戦」は約5年前に終わった。この5年間世界には次々に問題が多発し、国際関係は複雑で「混沌」と言ってよい状況になってきた。「冷戦」にかわる「新しい秩序」はまだ打ち立てられていない。国際関係は今までとは異なった問題の増大を予測させる。人が食糧・環境問題等は国家単位で解決できる問題ではなく、地球規模での解決が必須である。「文明の衝突」の問題も提起されている。

【講義計画】 後期では、前期での国際政治・経済の理解に基づき、重要な国・地域の対外関係——日本の外交、英米の外交、ソ連の外交、東南アジアの外交——を整理し、21世紀への展望として、国連へ新しい視点でアプローチし、人工・食糧・環境問題等の国家を超えた地球規模の広がりをもつ問題への理解を深めるための講義にしたい。「冷戦を超えた」平和の世界秩序、21世紀への展望を構想する。映像ソフトを使用する。

【評価方法】 レポートorブック・レビュー点、定期試験、出席に基づき総合的に評価。

【テキスト】 高坂 正『平和の危機の構造』（NHKライブラリー）
高坂 正『現代の国際政治』（講談社学術文庫）

坂本義和『地球時代の国際政治』（同時代ライブラリー）
 入江 昭『新・日本の外交』（中公親書）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34451	歴史研究の基礎A	選・必	2	2	前期	金井光太郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 共和国アメリカの完成

【講義内容】 歴史研究は時代を異にする人々が、いかに今の我々と違った感じ方、考え方、環境で生きていたかを探求する。アメリカは建国200年にすぎず、よく歴史のない国と言われている。また、アメリカン・ウェイ・オブ・ライフは、政治から家庭、娯楽まで我々の現実そのものであり、容易に理解できるような気にさせる。しかし、そのようなアメリカが決して誰にも疑いない目標であったわけではなかったし、直ちに全ての人に受け入れられたものでもなかった。入植から革命建国を経て、南北戦争によって一体となった共和国が完成するまで、当時を生きていた人々にとって何が問題であり、現実であったのか見てゆきたい。

- 【講義計画】
1. イギリスとアメリカ
 2. 戦争と発展による社会変動
 3. 革命と建国
 4. 合衆国の発展
 5. 解体の危機
 6. 南北戦争と再建

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 遠藤泰生他『常識のアメリカ・歴史のアメリカ』（木鐸社）
 大下他編『史料が語るアメリカ』（有斐閣）

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34452	歴史研究の基礎B	選・必	2	2	後期	金井光太郎
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 アメリカ合衆国の転換

【講義内容】 歴史研究は時代を異にする人々が、いかに今の我々と違った感じ方、考え方、環境で生きていたかを探求する。アメリカは建国200年にすぎず、よく歴史のない国と言われている。特に、現代アメリカは、政治から家庭、娯楽まで我々の日常そのものであり、容易に理解できるような気にさせる。しかし、20世紀には、なじみ深い個人の自由で平等なアメリカ・イメージが重大な挑戦を受け、そのままではもはや十分に機能しなくなった。アメリカ第2共和制と言われることもある。アメリカの対応、実質的な変化を探ることで今後のアメリカ、そして現代世界の今後の見通しにもつながるものと期待する。

- 【講義計画】
1. 金ピカ時代
 2. 産業化体制と体制への挑戦
 3. 革新主義の時代
 4. 大量消費社会の出現
 5. ニュー・ディールと現代国家
 6. 戦後の繁栄とアメリカの分裂

【評価方法】 筆記試験

【テキスト】 遠藤泰生他『常識のアメリカ・歴史のアメリカ』（木鐸社）
 大下他編『史料が語るアメリカ』（有斐閣）

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
34453 34454	歴史研究の基礎C・D (スペイン中世・近世)	選・必	2	各2	前期 後期	芝 修身
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【講義内容】 A) スペイン中世を特徴づけているもっとも重要な出来事はイスラムのイベリア半島への侵入とその後のキリスト教徒による巻き返し、いわゆるレコンキスタである。8世紀初期から、15世紀末までの、8世紀近くにわたるイスラムの存在はどのような痕跡をイベリア半島に残したのであろうか。同時にレコンキスタはスペインの政治的・経済的・社会的・精神的構造に著しい影響を与えたと推定されるが、それは果たしてどのようなものであったか。このようにイベリア半島ではイスラム教徒とキリスト教徒が長期にわたり相剋と共存を繰り返したが、重要なもう一つの存在にユダヤ人がある。スペインではユダヤ人は宮廷においてのみならず、商業、手工芸、農業、金融業等ほとんどあらゆる分野で活躍していた。これら三教との平和共存と葛藤がスペイン中世のもう一つの特徴である。この興味深い関係についても述べたい。

B) スペイン黄金時代を主に取り上げたい。すなわち、カトリック両王の時代からフェリーペ4世の時代までの200年弱である。この時代はスペインが相対的に孤立した中世とは逆に、ヨーロッパの表舞台に登場し、ヨーロッパ政治を指導した時代である。日本ではとすれば、この時代のヨーロッパ政治はイギリスやフランスを中心に語られがちであるが、本講義ではスペインを主役に講義したい。外交分野と同様に興味深く、かつ重要な社会・経済構造についても言及したい。黄金世紀のスペイン人の精神構造におけるもっとも重要な二つの要因たる、イダルゴ精神と純血意識を説明し、当時のスペイン人像に迫り、そこから作り出される黄金世紀の社会を描き出したい。また過剰なまでの対外政策を支えた経済構造を分析し、スペイン衰退の要因を明らかにしたい。最後に、1936～1939年のスペイン内戦の概要を説明すると共に、19世紀から20世紀にかけてのスペイン社会・経済上の諸問題を分析し、内戦に至った原因を探りたい。

【講義計画】 将来芝担当のイスパニヤ演習を履修する学生は必ず本講義を受講すること。

【評価方法】 筆記試験で評価するが、出席も若干考慮する。

科目コード	科目名	指定	年次	単位	期間	担当者
34501	文化研究の基礎A	学部 共通	2	2	後期	櫻井 進
他の科目との関連				他学科履修	可	重複履修 不可

【副 題】 イデオロギーとしての文化

【講義内容】 ごく日常的に用いられている文化という概念は、18世紀から19世紀にかけて、西欧社会においてきわめてイデオロギー的な意味を担う概念として形成されてきた。本講義では、そういった歴史的経過を検討した上で、文化領域に関する研究がどのようにして可能なかを、西川長夫『国境の越え方』（筑摩書房）・M.セルター『文化の政治学』（岩波書店）・P.ブルデュー（NHK教育放送のインタビュー・ビデオ）などの議論などを参照しながら考察する。

【講義計画】 (1)「文化」・「文明」概念の歴史的形成
(2)文化的領域はどのようにして語りうるものとなるか
(3)人間学としての文化研究の可能性

【評価方法】 期末の小論文による。また、クラスでの議論に対する積極的な姿勢が期待される。

【テキスト】 適宜指示する。

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34701 34705	中級英語会話 I・II		2~4	各1	前期 後期	D. Dycus
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34711 34715	中級英語作文 I・II		2~4	各1	前期 後期	佐 藤 恵 子
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34721 34725	上級英語会話 I・II		2~4	各1	前期 後期	D. Dycus
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可

科目コード	科 目 名	指 定	年 次	単 位	期 間	担 当 者
34731 34735	上級英語作文 I・II		2~4	各1	前期 後期	森 あおい
他の科目 との関連					他学科 履 修	可 重 複 履 修 不可